

2017年度 会員開発委員会基本方針

会員開発委員会委員長 本田 敦久

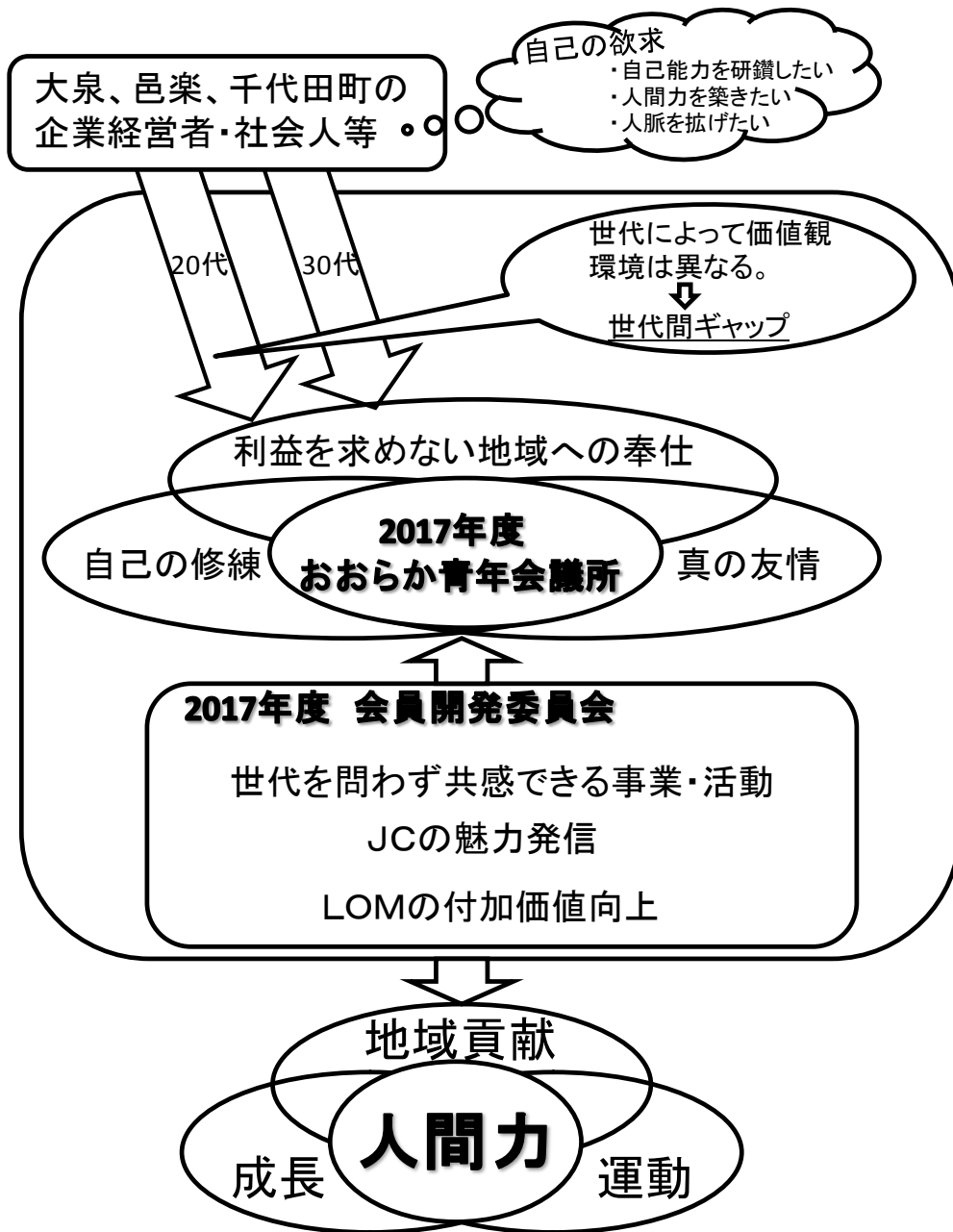
人が生まれてから過ごす数十年間、どれくらいの数の人に出会い、どれくらいの出来事を経ていくのでしょうか。それは、各々の自身の能力の限界を伸ばしたいという欲求に大きく依存するのだと考えます。しかし、自身の能力を自身の力だけで伸ばすには限界があります。さらなる伸びしろを拓くためには「修練が生む自己の開発」、「真の友情を築くこと」そして、「自己の利益を求めない地域への奉仕」が必要であると考えます。自身がなぜおおらか地域に根ざしているのか。そして、なぜおおらか青年会議所に属しているのか。それは、多くの人に出会い、多くの出来事を経て自身の能力の限界を伸ばしたいという明確な目標があるからこそです。

修練を的確に受け止め、自己啓発に繋げることは個人のこれまでの経験値や、重ねている年齢に依ります。たとえば30代の青年に響く修練から得られた言葉や経験は、20代のすべての青年に通ずるのでしょうか。そして、まだ未熟な青年に自己の利益を求めず地域へ奉仕することを働きかけても、共感するのでしょうか。本年度の会員開発委員会は、そのようなLOM内部の世代間ギャップをできるかぎり埋めることを目的として、結束力を強めた事業展開を図ります。そして、世代を問わず共感ができる事業・活動を共に行うことでおおらか地域の活性化に繋げていきます。

青年会議所に属する私たちの多くは、今もこれからも自身が所属する「企業」や「生活」のなかで多くの事柄に対して的確な決断ができる論理的思考能力が求められます。そして、多くの人々と出会いながらお互いを高め合うことができる対人関係力が必要と考えます。青年会議所で習得できることは、必ずこの各個人の「人間力」に直結するものと確信しております。2017年度入会者の所属する委員会として、新入会員に対してこの魅力をまず発信します。そして、LOM全体の付加価値を高めることで、さらなる会員拡大へ繋げていきます。

これまで先輩諸兄諸姉から受け継がれてきた各事業につきましても結束力を強めた運営を図っていきます。また、館林・おおらか合同例会については交流や友情が深められるよう展開してまいります。

おおらか青年会議所が根ざす大泉町、邑楽町、千代田町から集まったすべての青年たちが共感できるフィールドづくりを開発します。そして、おおらか青年会議所として、有意義なJC運動および地域貢献ができるように邁進してまいります。



事業計画（案）

- ・ 賀詞交歓会の実施
- ・ 館林・おおらか合同例会の実施
- ・ 会員開発研修の実施
- ・ 全国大会（埼玉中央）
- ・ さよなら例会の実施
- ・ その他

